

どんびま

2013年10月4日発行
発行者 椀の湖農業小学校

花馬祭り

今は、稲の品種が変わって刈り取りは終わってしまっているが、豊作を願う秋祭りの季節だ。坂下神社は八百年の伝統の花馬祭りだ。主神は八幡神社で、かの木曾義仲も武運長久を祈願したと伝えられている。各地に花馬はあるが、三頭の木曾馬が勢揃いする坂下が一番盛大である。岐阜県重要無形民俗文化財の指定を受けている。

馬の鞍の花挿台には中央に櫛を挿し、周りに花竹を挿す。櫛の幣束は白絹十二段(一年分の着物)を表し、365本の花竹の花は田畑の農作物を表している。金は稲、銀は麦、黄は大豆、紫は小豆、白は大根、青は菜、赤は人参である。

町内三地区から出発した三頭の花馬は駅前に集結し、行列を整え、保育園児の稚児が手綱をひき、中学生のお囃子にあわせてお宮に向かう。境内を練ったあと、太鼓の音を合図に人びとが花竹を奪い合う勇壮な祭りである。取った花竹は持ち帰って、田や畑にさして五穀豊穡を祈るのだ。今年の花馬祭りは10月13日である。(草)



10月授業日のご案内

- 日程 10月20日(日)
 - 受付 9:00~ 9:30
 - はじめの会 9:30~ 9:45
 - 授業 9:45
 - (収穫・畑仕事) ~12:00
 - 昼食 12:00~13:00
 - 授業 13:00
 - (稲の脱穀・焼き芋) ~15:00
 - 終りの会 15:00~15:30
- 締め切り 10月16日(厳守)
- 先月連絡しましたように、刈取ったバケツ稲を持参してください。
- 問い合わせ・緊急連絡=事務局 山内総太郎 Tel.0573-75-4417・09051109362 Fax.0573-75-4418
- 持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え
買物袋(たくさん)、箸、食器
- 郷土料理 栗赤飯、松茸ごはん、豚汁ほか
- ☆文集の原稿を持参してください。
農小での楽しかったこと、心に残ったこと、ご意見、思い出の絵、何でも結構です。
同封の原稿用紙に、濃く書いて下さい。
(書き方は、6ページ)
- 10月の授業日に欠席の場合は、10月25日までに事務局山内まで郵送して下さい。

～農小レポート～

9月の授業日は、台風18号接近による警報発令中のため開催中止としました。よって「トクちゃんの農小レポート」はお休みです。

後日、先生方・スタッフが集まって、稲刈り、ダイコン・カブの種蒔き・ハクサイの苗植えなどの作業をしました。その後の水撒きのご苦労もあって、きれいにそろった芽が伸びはじめています。

「ソバの花まつり」の実行委員会の依頼で、皆さんの案山子をソバ畑の中へ移動しました。当日はもとより、前後の花の盛りの期間中、カメラマンたちには格好の被写体になり、1万人を超える大勢の人たちの目を楽しませてくれました。

10月の授業日に、それぞれ撤収・解体をお願いいたします。

～あほ兄の百姓ぼなし～

みんなで ひとつた 花の湖農小 20年を振り返って(3)

1994年3月20日、花の湖農業小学校は開校した。第1期は生徒さん102名とその家族の皆さん、先生15名(平均年齢68歳)とスタッフ31名でスタートした。

その年の社会情勢は、いつもの年の3月なら主食の米が余っているのに、前の年の凶作でこの3月には米が足らなくなった。日本人の口には合わない乍も、東南アジアから大量の輸入米が入って来た年であり、農業・稲作の大切さが大きく話題になった年であった。

又1993年には、子どものいじめが大きな社会問題になった。詰め込み教育のひずみがあらわれたと言われ、教育要綱の見直しの声を聞くようになった。この結果、2002年には教育要綱が改定され、ゆとり教育・総合学習が取り入れられた。幼い時から小動物にふれたりする命の出会いと、野菜などを育てて食の大切さを知る体験が必要とするなど、生きる力をつける内容となった。期せずして農小は先取りをしたことになった。

「学校」とは名乗っても、元小学校教諭の鎌田校長以外はおよそ「教育」には縁が無く、先生方は、子どもの頃にいたずらをして先生に叱られた思い出はあっても、反対の立場で子どもたちに教えるというのは、かなりのプレッシャーで、緊張の連続だったようだ。おじいちゃん先生、おばあちゃん先生は孫のような子どもたちになつかれ、親さんたちにもモテモテだったが、「先生、センセイ」と呼ばれることがまず重圧であったようだ。

ある先生は、帰る頃にはヘトヘトで、「来月は休ませていただきます。」と言い残して帰ったものの、家に帰ると子どもたちの小さい手や笑顔が思い浮かび、翌月には「また来ました。」といった話や、又ある先生は、ニンジンの「間引き」と言っても子どもたちには通じず、全部抜いてしまわれて、「もう先生は辞めさせてもらいます」と落ち込んでしまったなど、笑えない笑い話もあったりした。ある人は、戦時中の実業学校流の鍬の担ぎ方を真剣に教えたり(他人に怪我をさせない方法として)、またある人は、まるで農業高校の授業の様な丹念な教え様であったりした。経験の無い初めての事だけに、一年目の農業小学校は泣き笑いのドタバタ劇のようであったが、皆の真剣さ・真面目さは子どもたちにも、親さんたちにもしっかり伝えられたと信じている。

3年目の事だったか、「地元の子どもたちなら分かるが、なぜ、都会の子たちを集めてこんなにやらなければならないか？」という質問が出始めた。これは外部からは開校前から尋ねられることが多く、農小の目標の一つである、「都市（消費者）と田舎（生産農家）の交流」だからと答えてきた。と言っても地元を拒否してきた訳ではなく、数は少ないが恵那市・中津川市内からの応募は続けてあった。先生方から疑問が出てきたように、我々スタッフも、2年目も3年目も第1期と同じことを繰り返すことしかできないことに悩んでいた。農小のあり方・やり方について議論もしていた。

そんな時、丁度「農小フォーラム」という全国の農業小学校の情報交換会が滋賀県で開催され先生方も一緒にマイクロバスで出かけた。会場となった草の根農業小学校は同じような事をやっている所だったので、椀の湖からの参加者は何かにつけ比較して見た。帰りの車中で出た言葉は「椀の湖の方がいいぞ」「野菜の出来は比べ物にならん」などなど。それ以後先生たちは、表情も和んで自信に満ちてきたように見えた。

開校して何年か後、信州大学名誉教授の玉井袈裟男先生が初めて農小へ来られたのは、先生方の作業日の休憩時間だった。皆に玉井先生を紹介すると、先生は開口一番「久しぶりに女学生に出会いました。」と言われた。持ち寄った茶菓子を食べながらにぎやかに談笑するおばあちゃん先生たちの印象だった。帰りの車の中で先生が「この学校は子どもたちの為だけでなく、おじいちゃん・おばあちゃんのための学校だ」と言われた言葉を思い出す。先生はその後、何組かの視察団を引率して来られ、荒城、桜柿羊の里、須坂の3校の農業小学校開校を導かれた。3校とは姉妹校として、今も交流が続いている。

一方、裏方役の食事係は、毎回総勢300人余の昼食を準備するのにてんてこ舞いした。炊事場は農家払い下げのビニールハウスで、器具はガス炊飯器、鍋、箆などはもちろん買いそろえたが、それ以上の大きなもの、回転釜や調理台などは、近隣の学校給食室や坂下女子高校(当時)の調理室の改修による払い下げを貰って来たものだった。あとは皆で持ち寄ったもので不足分を補ってのスタートだった。

水道だけは町役場が引いてくれたが、子どもたちが畑作業を終えて手を洗いに来るととたんに水が出なくなり、時には手洗いの蛇口制限をしなくてはならなかった。

そんな設備で、係は給食等の経験の無い者ばかりだったが、当時は冠婚葬祭は自宅や公会堂でやっていたから、その人寄りの賄いのノウハウでやりきった。むしろ、それだから田舎料理の味が出せたのかもしれない。食事を供するのは公立の所では難しいことが多いようだが、椀の湖は私立だからこそやれたし、これが田舎・郷土を表現することの一つになり、収穫した旬の野菜と一緒に食べる食農教育の実践にもなった。山内一家を中心に今も続いていることに頭がさがる。

縁の下の力となるスタッフは、地元の人たちだけではない。それは父母のO.B.の人たちだ。自分の子どもが卒業した後も引き続きスタッフとして、あるいは先生の補佐役として通い続けてもらっている。遠方から、無報酬どころか毎月食費を払ってである。自分の事のように働いて、しかも思いが熱い、農小について語り始めると限りがない。椀の湖農業小学校は地元の者だけのものでないことを教えてもらっている。

第1期のO.B.の子どもの中で6年生で卒業した子は、今はもう32歳の計算になる。すでに次代の小学生がいても不思議ではない。いろいろな思い出を作ってくれた椀の湖農業小学校へ通ってくれた子どもは、今年を入れると1502人になる。

～かなちゃんの虫日記～

おいしい秋☆ 今年の秋は虫を食べてみませんか？

岐阜県やおとなりの長野県には虫を食べる文化がありますよ。栄養があるし、なによりおいしいです。

あたしも小さい頃から たまに食べています。



弘法園の頃、みんなで田んぼでたーくさんイナゴをつかまえて、先生が佃煮を作ってくれました。

大きなサクラエビのようで、バリバリしておいしかったです。



女子高生だった頃は、生物の先生がハチか何かの幼虫をフライパンでいためて土で味付けしたものを、おやつに分けてくれました。ほんわり甘くて とうもろこしのような味でした。

そして、今月、クロスズメバチの巣箱が2つもおいてあるおうちにひっこせることになりました♡
大家さんの素敵なご趣味です。ヘボとよばれ
幼虫やさなぎを食べます。黒い体に白色の糸目
（まもようで）上品なかんじのハチです。

毎日レバーを与えてもらっています。

レバーが苦手な人は、ヘボを食べれば

いいですね。



第20期
椀の湖農業小学校

卒業記念

作品展

平成 25 年 11 月 24 日(日曜日)

農小の卒業式の日です

椀の湖自然公園ギャラリー

農小の受付をする建物です

作品を出してください

「夏のもの作り教室の作品」を持ち寄ってください。

その他 農小で撮った「写真」思い出を描いた「絵」など

なんでもけっこうです。 作品は当日持参してください。

文集原稿の書き方についてお願い

原稿用紙は2種類あります。

- 低学年（3年生以下）は10ミリ原稿用紙に書いて下さい。
- 高学年と親さんは7ミリ原稿用紙に書いて下さい。中央の左右横2列づつを空けて、太い線の枠内に2段に書いて下さい。
- どちらも太い線の枠内の最初に「題」と「氏名」を書いて下さい。

皆さんの原稿はそのままコピーをとって印刷にかけますので、できるだけ濃く書いて下さい。

鉛筆なら2B・4Bがいいかも。

消しゴムで消して書き直す場合は前の字をきれいに消して下さい。

文章だけでなく、絵・スケッチももちろんO.K.です。

皆さんの一番心に残った事、楽しかった事、関心があった事など何でもお書き下さい。

農業小学校に対するご意見も是非お願いいたします。

